

全国学力・学習状況調査（平成30年4月17日実施：6年生対象）の結果が届き、結果の分析を行いました。本校の子どもたちの状況についてお伝えします。

【平均正答率（%）】 A：主として知識 B：主として活用

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
神奈川県	70	54	64	52	60
本校	73	57	69	56	63

全体としては、県・全国を上回る結果であり、日頃の学習が定着しているということが分かります。

国語では、全ての領域において、県・全国を上回る結果となりました。特に「話すこと・聞くこと」の領域では、県・全国の前年正答率を大きく上回りました。日々の学習の中でも、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞くことで自分の考えを深めたりする経験を大切にしていることの表れと捉えます。今後も、子どもたちが相手意識や目的意識をもって学習し、互いの考えを伝え合う学習を大切にしていきます。一方、漢字の読み書きに関しては、問題によっては県・全国の前年正答率を下回る問題もありました。漢字の学習をする際に、単純に書き取りを行うだけでなく、該当漢字を使った言葉を集めたり、該当漢字を使った短文を作ったりするなど、実際にその漢字がどのように使われているのかを考えながら行うようにしていく必要があると考えています。

算数では、これまでの4年間、職員で算数の指導の重点研究を行ってきたこともあり、A問題・B問題いずれにおいても高い正答率を示しました。各領域で「知識・理解」を問う問題で正答を導くことができた児童が多く、基本的な学力が身に付いていることが分かります。また、「知識・理解」を活用して考える「数学的な考え方」を問う問題でも、根拠を明らかにして考えを書くことができる子が多くいました。日々の学習の中でも、正しい答えを導くだけでなく、「なぜそう考えたのか。」「どうしてそうなるのか。」を考え、説明し合うことを大切にしているので、その成果の表れと考えます。

理科では、選択式・記述式いずれにおいても、県・全国を上回る結果でしたが、理科的な用語を答える問題には課題が残りました。基礎・基本に立ち返って、名称や用語を正確に理解できるようにしていくことが必要です。

質問紙調査（学習・生活）からは、全国的に子どもたちの自己肯定感・自尊感情が低いという結果が出ていますが、本校の子どもたちも同様の結果を示しています。子どもたちの良さを認め、何にでもチャレンジしていこうとする気持ちをより一層育んでいきます。

地域行事への参加や、地域や社会の問題や出来事についての関心は、全国よりもかなり上回り、これは学校と地域の連携による諸活動の成果と考えられます。

この調査は子どもたちの学力・学習状況の一側面ではありますが、今回の結果を踏まえ、さらに「わかる授業」「楽しい授業」を実践するとともに、子どもたちが達成感を持ち、主体的に取り組める学習や活動となるよう、分析を生かして取り組んでまいります。